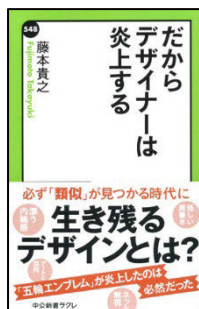


【著作紹介】 だからデザイナーは炎上する



著者：藤本 貴之（総合情報学部総合情報学科 教授）

出版社：中央公論新社

出版年：2016年2月発行

価格：780円＋税

ISBN：9784121505484

[所蔵状況を確認する](#)

<http://triton.lib.toyo.ac.jp/detail?bbid=U102152779>

内容：

五輪エンブレム騒動は、業界に潜む「勘違い」や「内輪感」を浮き彫りにし、デザイナー周辺を炎上し尽くした。その焼け野原にやってきたのが「デザイナー・冬の時代」だ。何かとの類似性が”必ず”見つかる時代に、新しいデザインは生まれるのか？本当にパクリはすべてNGなのか？許されるパクリ、許されないパクリの違いとは？そしてインターネット時代に生き残るデザイナーの「条件」とは？デザイナーに関わる人、必読！

教員メッセージ

最近では、メディアを賑わせる騒動が起きると「炎上」という言葉が飛び交う。芸能人、アスリート、政治家、大学教授、文化人・・・などなど、あらゆる分野で「炎上」は起こる。近年言われる「炎上」と、いわゆる「ゴシップ」とは何が違うのか。

メディアを賑わせる騒動に対して、誰もが何気なく乱用してしまいがちな「炎上」という言葉。しかし、「炎上」とは、いわゆる「ゴシップ」「ワイドショーニュース」とは異なり、SNS時代を象徴する社会現象だ。

本書では、2015年に大きな社会問題となった「東京五輪2020エンブレム騒動（東京五輪の公式エンブレムにパクリ疑惑が発生し、取り下げとなった事件）」というネット時代のデザインのあり方の分析を通して、パクリ問題のメカニズムについて説明しつつ、それが「炎上」へと至った経緯やその構造についてわかりやすく詳述した。

SNS時代と言われる今日、「パクリ」と「炎上」は誰もが巻き込まれる（あるいは関わってしまう）可能性があるトピックだ。そして、「炎上という現象」に対し、「デザイナー（＝作り手）という職業」はもっともその渦中に置かれやすい存在でもある。デザイナー（＝作り手）とは、本人の意思とは無関係に「パクリ」の危険性を抱え、そしてそれは常にネット炎上のリスクに晒されている。

それは大学生であっても例外ではない。何気なくコピペしたレポートや問題行動が SNS で「晒され」、大きな問題（退学や除籍、内定取り消しなど）へと発展している事例は近年非常に多い。

「パクリ」「炎上」「デザイナー」・・・いずれも、マスコミ報道も含め無意識的に乱用してしまう言葉であり、その明確な定義や理解を促すような説明や著作は少ない。本書ではデザインにおける／デザイナーの「パクリ」を切り口として、「炎上」というトピックを客観的に解説した数少ない著作である。

「パクリ」と「炎上」とは、大学生（もちろん、我々大学教授も）にとっても他人事ではない。ぜひ多くの大学生に読んでほしいと思う。

【著者】 藤本 貴之（フジモト タカユキ）



【専門】

情報デザイン論、メディア構造論、ネット炎上の分析と技術

【現職】

東洋大学 総合情報学部・教授

合同会社 藤本情報デザイン事務所・クリエイティブディレクター

【その他】

北陸先端科学技術大学院大学・教育連携客員准教授

株式会社 ウィズダムウェブ・代表取締役

日本グラフィックデザイナー協会（JAGDA）・正会員

【学歴】

1976年、東京生まれ。1995年、東京都立 新宿高等学校、卒業。2001年、早稲田大学 教育学部、卒業。2003年、北陸先端科学技術大学院大学 知識科学研究科、修了。修士（知識科学）。2007年、山形大学大学院理工学研究科より、論文博士により、博士（学術）。

関連リンク

[東洋大学研究者情報データベース（藤本貴之教授）](http://ris.toyo.ac.jp/profile/ja.081e31a2227269e9c104f91db5773376.html)

<http://ris.toyo.ac.jp/profile/ja.081e31a2227269e9c104f91db5773376.html>